

## 第2回向日市中小企業支援・事業所誘致条例検討委員会 会議録

日 時 : 平成23年11月21日(月) 午後2時から同3時30分まで

場 所 : 向日市役所大会議室

出席者 : ( 委 員 ) 川端委員、有馬委員、嶋田委員、岡本委員、  
岩田委員、鎌田委員、  
奈田企業立地推進課参事(林委員代理出席)、岸委員  
( 事 務 局 ) 大野建設産業部参事兼道路整備課長、  
清水産業振興課長、長谷川産業振興課課長補佐、  
谷口産業振興課主査、矢形産業振興課主査

傍聴者 : 1名

---

### 内容(要旨)

#### 1 開会

#### 2 議事

##### (1) 条例に盛り込む内容について

①条例の目的について

②条例の対象とする業種について

#### 3 意見交換(要旨)

委員長

今回の委員会から、条例に盛り込む内容として、目的及び対象地域、対象業種等について検討を進めていく。周辺自治体が策定している条例については、あまり意識せず、向日市にふさわしい、オリジナルの条例として考えていきたい。

まず最初に共通認識として確認させていただきたいが、現在、向日市の課題となっている道路の整備状況や JR 東海道本線による市域の東西分断等については、企業等の誘致戦略上避けて通れない問題である。しかしながら、現時点においては、そういった問題の改善を前提として条例案を検討するのは適切ではないと考える。向日市が置かれている現状を前提に議論を進めたいと思う。

条例案の検討については、まちにどのようなものがあれば生活がよくなるか、また、市民や事業所の従業員等の利便性等を高めるにはどうすればよいか、市民、企業、行政など、様々な視点により議論をしていただきたい。

委員

現在の向日市では、道路が狭く、トラックが通れない道路もある。事業所を誘致するには、キリンビール工場跡地や JR 向日町駅、阪急東向日駅周辺の開発いかにかかっているのではないかと。阪急洛西口駅、JR 桂川駅周辺の向日市北部地域については、様々な開発計画があると

の情報もあり、今後委員会では、どの地域をどうしたいのか、どういう企業を誘致したいのかを検討していく必要がある。

事務局 向日市北部地域については、麒麟ビール工場跡地へのイオンモール株式会社の進出が決定しているが、本市では、向日市中心市街地である JR 向日町駅から阪急東向日駅にかけての地域のにぎわいの創出に取り組んでいく必要がある。

委員 阪急洛西口駅東側地域についても現在、区画整理事業が進んでいるが、具体的な開発内容については未定である。

委員長 誘致する事業所については、工業だけでなく、商業全般にも対象を拡大する方がよいと考える。

委員 企業の視点としては、まちにどのような魅力があるかが重要である。市内にも、右肩上がりの成長企業があり、雇用の創出に直結している。そういう企業をどうやって見つけ、いかに向日市に来てもらうか。向日市に来てもらうための魅力を整理し、PR する必要がある。

企業にとって魅力を感じるのは、鉄道、道路等通勤環境が整っていることであるが、向日市は、事業所が多く立地している JR 向日町駅東側に改札がなく、また、国道 171 号や市内の道路も利便性が高いとはいえない。また、市域のほとんどが埋蔵文化財調査の対象地域に指定されている状況では、調査費用の負担も少なくない。事業所を誘致するのであれば、文化財調査費用を市が負担するなどの支援が必要である。

委員 市民の目線から、向日市には、バスの路線が整備されておらず、人の流れが滞ってしまう。人の流れはまちのにぎわいに直結するが、向日市民の足としての交通網が整備されていないと感じる。

委員 巡回バス等公共交通については、現在、別の委員会で検討されているが、実際の需要がなかなか見込めない。

委員長 需要がない面については、向日市の産業構造が変化すると交通が改善する可能性がある。そのために産業を集積する方法を考えたい。

委員 企業、事業所誘致の対象業種の拡大は時代の流れであると感じており、京都府も対象業種拡大の方向で検討している。

昨今の円高等でますます大工場の国内での立地は難しいと解釈している。一方、知識産業分野の集積は非常に重要であると考えている。

知識産業分野では人的資産が重要視されており、鉄道駅から近い、あるいは自宅から近いなどの従業員の利便性が企業の立地に直結するので

はないか。

また、当委員会で検討する条例案では、企業等の面積要件は不要ではないか。

委員長

昨今は産業の在り方が変わってきており、デザインのセンスやクリエイティブ性など「人が思考する部分」が重要視されている。そういうことを仕事にしている人たちは暮らしやすいまちに集まってくるため、職住近接の考えに立ち、どういうまちが働く人々にとって魅力を感じるまちなのかを考えていく必要がある。

委員

向日市には病院がなく、また、書店や教養的娯楽施設も少ない。

副委員長

気軽に飲食できる店舗はあるが、大きな宴会や企業の展示会、大きな会合を開くことができる場所がない。必要があれば市外に出なければならぬ。

委員長

今の指摘にあった状況を考えるなら、ホテルなどの宿泊施設の誘致も視野に入るのではないか。

また、JR 向日町駅から阪急東向日駅にかけてのエリアは、様々な業種の店舗やオフィスがあちこちに点在する方が一箇所に囲い込むより望ましいのではないか。

例えば、家賃が安かったり、仲間とのネットワーク形成が容易で情報交換がしやすいなど、若手の企業家等が小さなオフィスを構えやすい、人が市外から入って来やすく仕事しやすい制度をつくることで経済の活性化につながる。

こういった企業家達に対する呼び水として条例で魅力的な条件を提示することも1つの方法である。

委員

立地に係る規制を緩やかにしていく必要があるのではないか。その中で向日市独自のものを打ち出していくことが重要である。

個人的には上植野町の開発が遅れていると感じており、JR 長岡京駅から近いので、そのアクセスを利用するなど、まわりの環境を利用していけばよいのではないかと考える。

委員長

今回の委員会では、引き続き条例案に盛り込む内容について検討していきたい。

#### 4 その他

次回の日程調整について

第3回委員会は、平成24年1月19日（木）午後2時から開催予定